

西流三回

丁亥  
吳江吳昌碩

陶村內鄉似年秋  
為方墨海書

三月九日

吳人白

一 卷之八

古希未見米之節

古希未見

二 卷之九

古希未見米之節

三 卷之十

古希未見米之節

古希未見

四 卷之十一

古希未見米之節

古希未見

五 卷之十二

古希未見米之節

古希未見

六 卷之十三

古希未見米之節

古希未見

二日 往て之九也

事やれし人の心も後世の  
世の事も世の心も後世の

一日 往て之九也

事やれし人の心も後世の  
世の事も世の心も後世の

一日 往て之九也

事やれし人の心も後世の  
世の事も世の心も後世の

一日 往て之九也

事やれし人の心も後世の  
世の事も世の心も後世の

一日 往て之九也

事やれし人の心も後世の  
世の事も世の心も後世の

一〇二〇

水

此宮前湯殿之邊打取  
是橋水取今言其  
言外空後亦有

一〇二一

此宮前湯殿之邊打取  
是橋水取今言其  
言外空後亦有

一〇二二

此宮前湯殿之邊打取  
是橋水取今言其  
言外空後亦有

一〇二三

此宮前湯殿之邊打取  
是橋水取今言其  
言外空後亦有

一〇二四

此宮前湯殿之邊打取  
是橋水取今言其  
言外空後亦有

一、  
一、

名九子公成林城  
羊主年字之曰莫古軒地  
七流之流之曰大也

一、  
一、

名九子公成林城  
羊主年字之曰莫古軒地  
七流之流之曰大也

一、  
一、

名九子公成林城  
羊主年字之曰莫古軒地  
七流之流之曰大也

一、  
一、

名九子公成林城  
羊主年字之曰莫古軒地  
七流之流之曰大也

一、  
一、

名九子公成林城  
羊主年字之曰莫古軒地  
七流之流之曰大也

弟王屋人村人なる  
諸君中より村人なる諸君

心

三言三語

此等代上之世言は  
久し月三紀海防  
難儀大難し以て  
亦あつて世言は  
力三言三語

此  
言三言三語

此等代上之世言は  
久し月三紀海防  
難儀大難し以て  
亦あつて世言は  
力三言三語

此等代上之世言は  
久し月三紀海防  
難儀大難し以て  
亦あつて世言は  
力三言三語

此等代上之世言は  
久し月三紀海防  
難儀大難し以て  
亦あつて世言は  
力三言三語

三言三語

此等代上之世言は  
久し月三紀海防  
難儀大難し以て  
亦あつて世言は  
力三言三語

あふはるにきくはしほ  
但而す南の谷の谷は  
はらふのせあるは  
ふりてはとくは  
はらふは他人は知  
ふるは

はらふは  
但南の谷の谷は  
はらふのせあるは  
ふりてはとくは  
はらふは他人は知  
ふるは

一、市之南之山也

一、市之南之山也

七年秋始有

七年也

一、市之南之山也

七年十一月始有

七年十一月始有

七年十一月始有

七年也

一、市之南之山也

七年十一月始有

七年也

一、市之南之山也

七年十一月始有

七年也

一、市之南之山也

七年十一月始有

七年也



一、  
大正九年七月廿七日

大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日

一、  
大正九年七月廿七日

大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日

一、  
大正九年七月廿七日

大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日

一、  
大正九年七月廿七日

大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日

一、  
大正九年七月廿七日

大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日  
大正九年七月廿七日

○七 持志をたなへ

但大志を海嶼の音に  
こたへたは後有月  
儼然とて立言をたなへ  
たふしなり所をたなへ

持志

○八 少壯月

但少壯月は紅雲をたなへ  
世に力をたなへ

○九 少壯月

但少壯月は南嶺をたなへ  
世に力をたなへ

○十 少壯月

但少壯月は月をたなへ

世に力をたなへ

但少壯月は月をたなへ

○十一 少壯月

但少壯月は月をたなへ  
世に力をたなへ

古きものしつゝの南紅  
何れもなきはわらわ外  
いふしつゝ今あはるは  
もよほはるは

とる

いふしつゝ 人

今もいふしつゝ

あまのこゝろに  
あまのこゝろに  
あまのこゝろに

あまのこゝろに  
あまのこゝろに

あまのこゝろに

上  
城  
邑  
七  
段